

奪われた文字

「字知らんことは恥ずかしいことだから、他人に知られたくない。だから、識字には行けない。」

「字を知らんことが恥ではない。知らないことをそのままにしてきたことや、今まで、学ぶ機会を社会が奪ってきたことが恥だよ。いつでも参加して。」

「字は（尋常小）学校においてきた。」

「じゃ、取り戻しに識字学級に行こうよ。」

これらの会話は、文字を知らないことで、人生の中で受けてきた差別やその中で味わった苦い体験から、自分自身

識字学級に学ぶ女性たちの叫びです。

字の読み書きができて、目の前がパッと明るくなりました



西円通寺の識字学級で学ぶ皆さん

楽しいな

・しきじでのいろんな話ほつとする

・まなびや学舎の識字の光消さぬよう

これらは、識字学級の生徒たちが作った俳句です。生徒たちは、字を教わるだけでなく、部落に昔から伝わる伝統や芸能、文化なども学んでいます。また、苦勞して獲得した文字で、他の人たちにも見てもらいたい、伝えたいということを俳句などで表現しています。

識字学級での学習を通して、改めて部落差別と自分の生い立ちを振り返って考えた

り、識字学習が家族との語りに役立ったり、道にある看板が読めたなど、生きる喜びが感じられるようになったという声も聞かれます。

文字は、人と人と、人と社会をつなぐ宝物です。人間として、欠くことのできない権利、生きる力となります。

・ふれあいをももてつどう
・識字学級
・はじめての識字学級参加し

すべての人に教育を

国連は、二〇〇三年からの十年間を「国連識字の十年」と定め、「すべての人に教育を」と呼びかけています。世界には、未就学の子どもたちが一億一、三〇〇万人、非識字の若者と成人は、八億八、〇〇〇万人いるといわれています。

日本でも経済的な原因、社会的な差別によって教育の機会を奪われた人や、最近でもさまざま事情で学力の保障が十分でなかったため、文字の読み書きに不自由している若者たちもいます。

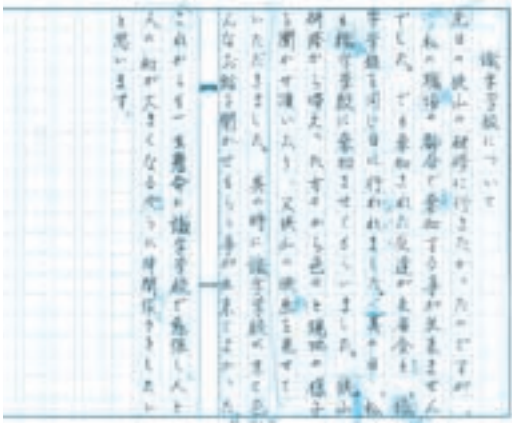
誰でも読み書きでき、人間らしい社会生活を送ることができることは憲法でも保障されています。

識字は、文字を学ぶだけでなく、身の回りに起きているさまざまなことを知り、考え、

表現することで生きる力を取り戻す営みです。

『字の読み書きができるようになって、盆と正月がいつぱんに来たみたいだ』と言った識字生がいます。字をとり戻すことは、人間らしく生きることを取り戻すことです。「すべての人に教育を！」

これからも西円通寺識字学級の灯をともし続けていこうと考えています。
問い合わせ先 人権推進課
(☎2013144)



▶識字学級で添削した作文